

リヒトクライス第20回演奏会

「水のいのち」出版50年記念



高田三郎（作曲家 1913-2000）

1996年4月 コーロ・ソフィア第1回ヨーロッパ公演
サンタマリア・イン・アラチェーリ教会（ローマ）コンサートにて



リヒトクライス

混声合唱団コーロ・ソフィア／女声合唱団コーロ・コスモス
しおさい／大井しらゆりコーラス／筑波大学混声合唱団
「内なる遠さ」の輪

1992年、鈴木茂明の指揮する5団体が高田三郎作品の精神と芸術性に共鳴して結成。以来毎年高田作品の個展としての演奏会を開催し、20回目を迎える。「リヒト」はドイツ語で「光」を、「クライス」は同じく「輪」を意味する。プログラムは混声・女声・男声合唱曲、典礼聖歌、室内楽曲、オルガン曲など多岐にわたり、高田作品の真髄を味わえるとの評価は高い。

イタリアでの高野氏の詩集刊行後、高田先生と私との会話の中で、この話が自然に生じてきたのも事実であった。そして高田先生の希望もあり、イタリア語版《水のいのち》作成を考え始めていた。（中略）だが、このテキストでは、メロディーに言葉が合致しない。アウフタクトで書かれてある曲に上手く適合するような、他の言葉を見つけねばならない。「読む詩」のテキストでは、この作業は不可能なのである。メロディーに合う言葉に書き替え、更に他の言葉を追加して、第四稿のテキストを私自身が推敲を重ねながら、作成していくしか、すべがなかった。（中略）こうして完成したイタリア語版《水のいのち》最終稿。早速、ビヤンキ教授（※イタリアの音楽家パレストリーナ研究の世界的権威）に完成した楽譜を見て頂いた。数日後、楽譜が私の手許に返却された時、まことに光栄なお言葉を頂いたので、次に掲載させていただきます。

『貴女がイタリア語に翻訳された（高野喜久雄の詩による）テキストを楽譜上に適応された、マエストロ高田三郎作の《水のいのち》の楽譜を拝見しましたので、ここにご返却申し上げます。貴女は、この上もなく素晴らしいお仕事をなさいました。マエストロが表出された音楽の崇高な精神と高雅な芸術の独特な本質そのものを、いかにイタリア語の中に維持することがお出来になったかが良く伺えて、非常に感服しております。深い感受性と謙遜な貴女の心により完成されたこの譜面を拝見しますと、貴女は、歌詩の最も繊細で見えない全ての部分にまで、完全に浸透し、洞察しておられることです。貴女のお陰で、私はマエストロ高田のこの作品の深い内部にまで入っていったわけです。既に彼の他の作品を拝見したことがあり、その際にも、彼の作品の真価を理解することができました。ですから、感謝の言葉とともに、ご親切な松本先生に対しまして、絶大な賞賛と尊敬の念を捧げて止まない私の気持ちを、どうぞ、信じてくだされば幸いです。

リーノ・ビヤンキ』

この手紙の日付は2000年9月5日である。私は即座に高田先生に本文を添付し、完成したイタリア語版《水のいのち》の楽譜を9月12日に特急便で送付した。お手許に届いたこの楽譜を、高田先生は確かにご覧になったに違いない。

だが、それから約一ヵ月後の10月22日に、先生は突然、帰天されたのであった。

私の唯一の慰めは、高田先生ご存命中に、お約束通りイタリア語版を完成させ、お手許にお届けでき、ご覧いただけたことである。

2004年12月 ローマにて 松本 康子

（リヒトクライス第12回プログラム
「水のいのち イタリア語版完成まで」より抜粋）